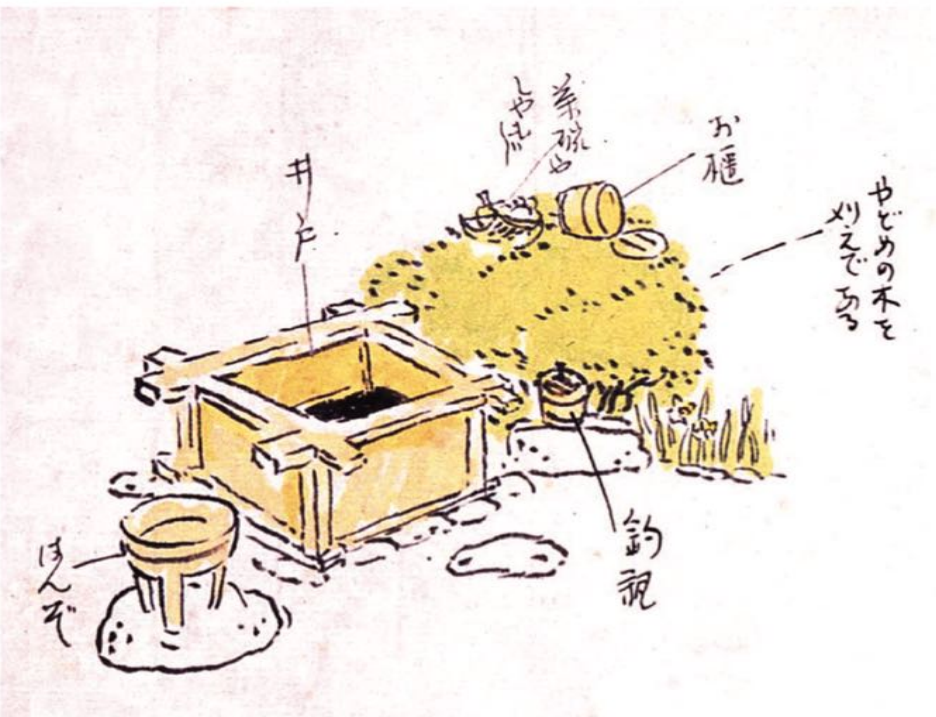




高橋余一の「生活絵巻」

07 井戸



〔時計回りに〕
やどめの木を刈(り)こんである、釣瓶、はんど、井戸、
茶碗やしゃもじ、お櫃

井戸は、家の裏手あるいは庭の隅にあり、つるべかポンプで水をくみ上げました。屋根付きの立派な「井戸屋形」を設けた井戸もありましたが、普通は穴の周りに石を積み上げたり、大きな土管で囲ったりしたものが多かったようです。

絵巻には、井桁が組まれた井戸が描かれています。井戸の周りには、つるべのほか、足の付いたおけ(はんど)やヤドメの木の上に横向きに置いて乾かしているおひつなどがあり、暮らしの中の井戸の様子がうかがわれます。

井戸は各家にあったわけではなく、ない家もありました。地域で共同で使った例もあります。生活用水は、井戸のほか、水路を作り山水を引いて水くみ場や洗い場を設けたり、湧き水を利用したりするなどさまざまな方法で確保しました。

■ 深田の共同井戸(昭和期)

